

質疑内容（令和４年度第２回小国町中心市街地活性化協議会）

鈴木委員　近年、インバウンドが非常に活発化している。そうした中で町内の宿泊施設が少ないため、インバウンドが来たとしても小国町が通りすがりになってしまう。今回、台湾から視察に来た際に、シイタケを自分で取って焼いて食べる企画を旅行会社で行った時に、焼いて食べる場所がなく、道の駅で陶板焼きにしたがバーベキュー形式で宿泊施設を会場にやりたかった。宿泊施設がないとインバウンドの需要が少なく町内にお金が落ちない。

旧電興社寮について、所有者の立場から維持していくのは難しく、現在は、全く手を付けていない。保全していくとなれば、早急に手を付ける必要があるが、冬季は雪囲いもやっていない状況である。現在一部の方から、貸してほしいという声があるが、実際に貸したとして今後、利用をしていけるかどうかかわからない。契約をしていないので、何かあると自由に使ってもらっている状況であるため、町で管理方法等についてどう考えているか。

事務局　インバウンドの対応について、宿泊施設の不足は、町中心部になると思われるが、町でも承知をしている。中心市街地活性化の一つの経済活力の向上という部分に資する所が整理できれば、この点も計画の検討ができると思われる。現時点でなかなか当てはまる国の支援が見つからないが、これにふさわしい国の支援を今後、検討していければと思う。

旧電興社寮について断続的に話は聞いているが、町としては保全をしていく方向で模索できないか考えている。いずれも、どういう方法が最適か所有者の(株)ステイを含め、今後検討していきたいと思う。ソフト的な活用方法も想定できるため、今回はハード的なものを想定して計画に掲載しているため、引き続き協議をしていきたいと考えている。

木下委員　将来を見据えた事業展開について、協議会の目的は、中心商店街の都市機能の増進、経済活力の向上、推進ということで中心市街地の活性化と地域経済の発展に寄与することにある。計画策定にあたり、アンケート調査の分析結果を踏まえた、目指す市街地像を協議会で議論し、エリア内に整備の上で短期間では厳しいため、５年、１０年という長いスパンで考えていただきたい。

アスモの活用について、市街地の中心にあり、生活者の利便性の高いアスモが都市機能の増進と経済活力の向上を推進するうえで、この先も町づくりの中核施設に位置づけられると考える。商業環境を踏まえた将来構想、アスモの有様、買い物の場、子どもや高齢者の集う憩いの場、公共交通の拠点、生活者維持の役割、防災機能の拠点、等を議論し、中核施設として計画に位置づけるように協議するべきである。

また、施設の老朽化も踏まえ次期総合センター整備との関わりも協議会で併せて協議するべきである。

事務局 計画期間は、5年間で一つの区切りとなるが、将来的にみる中心市街地のあり方についても議論する必要がある。都市計画との絡みの部分もあるため、引き続き検討し協議していきたい。

町中中核施設という重要な役割を担っていただいております、一方で様々な課題も発生しており、それらも踏まえた活用のあり方も計画の中で考えており、具体の事業に落とし込むという作業も必要であると思う。

木下委員 中心商店街の代表としては、現在、廃業が相次いでいる。今現在、協同組合で街路灯の維持管理組合という形で、月々の経費をもらって運営をしている。数年前から役場と協議をさせていただいており、将来的には、脱退者が増えていくと予想され、電気代もことを欠くのではないかと危惧している。栄町あたりでは、同じ街路灯でも役場管轄で運営していると思われる。中心商店街も将来的に同じようになっていくと思われ、協議会でも今後、話題にしていけたらと思う。

事務局 次期総合センターとの関わりについて、実施設計が進んでおり、まもなく着工という段階である。アスモと中心市街地と次期総合センターの回遊の仕組みについても計画の中で整理をしたうえで、事業連携できるよう詰めていきたい。

併せて国の事業で小国歩道について、次期総合センター付近の交差点の道路拡充といったハード面での環境整備もあるが、原案の中には、国の事業のため、掲載は難しいと思われるため、計画の背景部分で回遊性を高めるという取組部分で整理をしていきたい。

今(則)委員 あけぼの地区は現在96世帯で、人員はアパート等含め、約360名おり、今の自治会では、防犯面、安全面で地域の活性化に務めている。

自治会として備蓄倉庫の建設と言うことで、会議できるところも含めて検討している。

高速道路も予定されており、小国町は過疎化になっていくのではないかと。世間では観光流動という言葉が出てきており、力を入れていかないと考えているが、観光施設は少ないが観光資源は多いので何かPRできる物をつくっていかないと、関係人口や交流人口を深めていかないと活性化していかないとではないかと危惧している。小国町は働くところではあり、金の落とすところではないというように、アンケートの結果でも、町外に金が落ちている状況がうかがえるため、町内に金が落ちるように商店を活性化できれば理想である。今後、高速道路もできれば観光のお客様も増えPR次第では、集客出来ると思う。

昨年の8月豪雨では、米坂線が被害を受けており、地域に合った鉄道としてあり方を考えて行かなければならない。歴史ある鉄道も公共交通の部分から見ても重要な部分だと考える。通学利用している学生に負担がかかり、交通整

理の部分では早急に行わないと、町民が町外に流れてしまうのではないかと。

事務局     あけぼのの地区活動については、これまでも相談等は受けている。今回の計画内に具体的に掲載することは難しいと思われるが、あけぼの地区は世帯数が増えており、住宅等も多いため、定住関係の関わりという部分で検討できればと思う。

高規格道路についても、ソフト面でいかに町内に誘導するか、先ほど話があったインバウンドという新たな視点も踏まえた上で、ハード的な事業も含めて、今後の検討の課題になると思われる。

米坂線についても、代行バスが現在運行しており、公共交通という部分で非常に重要な役割を担っているため、引き続き復旧に向けて取り組んで行く。中心市街地の公共交通は、循環線等できめ細かに対応はしているが、さらに通行量をどう維持していくか利便性の高さを追求していく必要があり、この計画の大きな視点であり、今後の課題になると思われる。

北村委員     市街地活性化、地方創生を考えて行くうえで、観光、子育て、地産地消が重要になってくると思われる。特に観光部分について観光資源が豊富な小国町で宿泊施設が少ないため、情報発信が弱いと思われ、そこについての取組が具体的になるといいと思う。

子育ての面について、計画内で触れていないような気がしたため、どう考えているか。70歳以上の人口が増えすぎて、逆に高齢者が減少した際に今までに医療や介護にかかったお金が子育て支援の方に回せるのではないかとという考えもあり、計画期間が5年ではあるが中長期的に見れば、子育て支援の充実が重要になってくると思われる。地産地消についても、町内で循環するような仕組みや仕掛けがあればいいと思う。

現在の総合センターを解体した後は、立体駐車場建設予定だと思われるが、現総合センターの機能は今後どうなるのか。また、旧ゆーゆの解体及び跡地利用について具体的な構想があれば教えてほしい。

事務局     子育て支援について、来年度から子育て支援センターをアスモに設置する計画にいており、本計画にも整理をして反映していきたい。

地産地消について、循環する仕組みという部分はブランド戦略で認知度を高めているため、経済活力の向上につながる取組がどういう物が整理できるか検討課題にしていきたいと考えている。

次期総合センター整備事業を実施設計まで進んでおり、おぐに保育園が今年度末で閉園し、跡地を建設予定地として進めている。機能は、現総合センターの機能を保管する形になると思われるが、図書やホール機能、町民の活動の場、子育てに限らず使える多目的スペース等を計画している。現総合センターは昭和43年からの施設であり、50年以上経過し、老朽化している部分や当

初の機能も現在では、他の施設に分散されている背景もあるため、機能見直しを図ったうえで、建設を計画している。

旧ゆーゆーについては以前、花のコンサート広場というレストランがあった施設を出羽蒸留所という、新潟に本社がある企業がウイスキーの醸造をする準備をしている。隣にある温泉の施設について、そのまま使うことが難しいため、そのスペースを解体した跡地に出羽蒸留所と連携した交流の場として利用できないか検討をしているが、これから担当課と詰めていく必要がある。

委員長 山形銀行の北村委員は、町外から見た視点の中で中心市街地の活性化という点からもう少し力をいれるべき所はどんなところか。

北村委員 子育て部分で県外の小さい過疎地域において、高齢者にかけていたお金が高齢者の減少に連れてかからなくなり、その資金を授業料免除や保育料免除等で、他の市町村から人を呼び込んで人口を増加させているところもある。小国町も今後高規格道路がつながるため強みを発揮し、情報発信が弱い部分を見つめ直し、町内外に情報を行き渡るよう取り組んでいくといいと思われる。

齋藤委員 本計画で町民の方々が賑わうようなまちづくりを目指すのか、町外から人を呼んで活気づくようなまちづくりを検討するのか、両方だと思われるが、今日の説明を聞いた中では、特に定まっていなかったと感じたが、今後協議を進めるうえで、焦点を定めていくことは必要ではないか。

小国町の活性化でいうと農業との関わりも組み入れていくような検討してもらえるとありがたい。また、町外から人を呼ぶのであれば中心市街地が定まってはいるが、大宮神社や道の駅等の観光資源が活用できるような場所も検討してはどうか。

事務局 町内外どちらを対象にしているかとなると、両方を対象にしているという答えになるが、賑わいづくり、安心して暮らせる、新しい人が来て新しい風を起こす、という三つを説明した課題となり、方針で進めている。まずは、町民の人が安心して暮らし、賑わいができるというのが一番の視点だと思う。併せて経済活力の向上という目的に向かっては、町外からの交流の方々をどう取り込み繋げていくのが重要な視点だと考えている。

農業との関わりを中心市街地にどう構築していくのは難しいと思われるが、先ほどもあったが地産地消や観光に結びつける等の連携した取組として検討課題として考えられると思う。

大宮神社や道の駅等の交流拠点、資源については、区域をどう設定をするかという部分もあるが、区域内でどう取組を整理できるか課題がある。観光という視点でいけば、そうした資源の活用で賑わいづくりをテーマにした事業展開が検討できるのでないか。

今（与）委員 アスモを商工会で所有し管理している立場で、1 階部分の空き店舗が非常に多くなってきており、運営に苦労している。もともとアスモの設立の経過について計画当初は、約 13,000 人の人口がおり、その人口を維持していく前提に建物及び周辺施設を計画立案して建てた経緯がある。現在人口が 6,000 人代になっている中で商業施設としては運営が苦しい。これから中心市街地活性化を考えて行く中で、同じ過去を繰り返してほしくないため、人口が減っていく前提で、どういうニーズがあるかまた、できるだけ固定費がかからず、人に寄り添うようなソフト事業を多く展開できる計画になるよう反映していただきたい。

事務局 状況の変化という中での対応、対策になるかと思うが、ハード整備という部分では当然、お金がかかってくるため、最小限で済むよう支援措置を生かした整備が必要だと考える。ソフト事業についても、拠点となる施設とどう連携していくかという視点を重点に置きながら、ソフト事業の展開に取り組んでいくというような計画として整理をしていきたい。

村上委員 掲載事業の 6 番目に記載の通り、1 年前にカモスクをオープンし、ご利用していただいております。研修施設や宿泊施設の設備を整え、来年度から運用できるように準備をしている。掲載事業一覧について町の事業が多く、民間の事業が少ないと思われるため、今後も様々な事業を検討していきたい。

事務局 カモスクは、新しい取組を展開していただき、話題になっており町でも利用しているため、引き続き事業展開をしていただきたい。今回の示した記載事業については、町の事業が多く、事務局の情報収集も不足したところがあるため、今後は民間事業者、関係団体含め、計画に掲載できる内容を聞き取り、整理したうえで、記載していきたい。